

第 93 期部門長挨拶

部門長(第93期) 綿貫 啓一



この度、第 93 期技術と社会部門の部門長を務めさせて頂くことになりましたので、何卒よろしくお願い致します。今期技術と社会部門の運営につきましては、佐々木直栄副部門長、高橋芳弘幹事をはじめ、運営委員会委員の方々と力を合わせて、本部門のさらなる発展と部門登録会員の皆様へのサービス向上に精一杯努力して参ります。

社会を取り巻く環境は厳しくなっていますが、技術と社会に関連した諸問題を理解し、その解決策などを議論するとともに、知識や技術力を蓄えることが大事であると考えており、技術と社会部門の果たす役割もますます重要になってきていると考えます。本部門には、機械工学に関する基幹分野、応用分野、関連分野で活躍する研究者、技術者、研究者、経営者らが集まっており、様々な分野の専門家が結集しているのが、本部門の強みであると考えております。個々の研究者や技術者がそれぞれの研究や技術を進展させて、それぞれの研究者や技術者が互いに協力しあいながら分野横断的な新たな技術分野や様々な問題について、議論することができる環境にあります。部門講演会では同じ研究分野の研究者が一堂に集まり研究者同士が顔を合わせながら交流を深めることができ、年次大会では他の研究分野の研究者とも共同して、オーガナイズドセッションやワークショップ等を通じて機械工学全分野の研究者や市民の方々とも交流を行うようになってきています。また、イブニングセミナーは、技術と人間、技術と社会の関わりについて現状を理解し、将来を展望することを目的として開催されており、既に180回を越え、毎回多くの方にご参加頂き、好評を得ております。さらに、隔年でICBTT（経営と技術移転に関する国際会議）を開催しており、海外の技術者と経営者との交流を深めてきています。

ヘンリー・チェスブロウが提唱したオープンイノベーションという概念も既に世の中に浸透してきております。社会において、イノベーションとは、筋のいい技術を育て、市場への出口を作り、社会を動かすことであり、これにより技術革新ができると期待されています。本部門では、筋のいい技術を造りだし、市場への出口を作る環境を備えており、社会を動かす基盤

を持ち合わせており、社会の牽引力源として期待されています。その部門内外のアイデアを集め、技術的・社会的課題を解決し、その要件を満たす優れたモデルを構築するため、部門活動として、研究者や技術者同士にオープンな交流の場を提供し、オープンイノベーションにより社会への貢献を果たしたいと考えております。学会誌、論文集、英文ジャーナル、講演会、セミナー、研究会などを通じて部門登録会員の皆様の研究面や技術面での進展に貢献できればと考えております。産・学・官を問わず、志を同じくする皆様の積極的なご参加により、活発に議論しながら、技術と社会部門がますます発展できるよう頑張っております。本部門の諸活動に対して、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

(埼玉大学 綿貫啓一)

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.33

(C)著作権:2016 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門